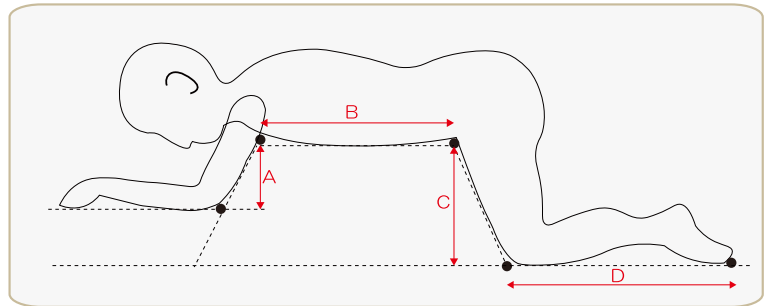


7. お手入れ・メンテナンス

- ・ フレームのお手入れの際は絶対に水などで洗うことが無いようにしてください。各部の汚れは固く絞った布等で拭き取ってください。
- ・ ビニールレザーのカバー類は水拭きしてください
- ・ スリングベルトやセンターシート、クロス類等の脱着できるカバーなどを洗濯する時は中性洗剤を使用し、洗濯ネットに入れるなどして生地を傷めにくい方法で洗ってください。
- ・ 縫い閉じになっている各種パッド類のカバーは洗濯することはできません
- ・ ダイヤルロック取付部のゆるみなどが確認された場合やその他の調整や修理などについては取り扱い業者に相談してください。

8. サイズ寸法表



基本ユニット

サイズ	上腕部長 A (腋窩～肘関節)	体幹骨盤部長 B (腋窩～股関節)	大腿前面長 C (股関節～膝関節)	下腿前面長 D (膝関節～つま先)	全長 (最小)	全幅	重量	耐荷重
S	15～31cm	25～31cm	20～26cm	40～50cm	97cm	41cm	7 kg	50 kg
M	20～30cm	30～38cm	25～35cm	45～59cm	117cm	46cm	8 kg	60 kg
L	25～39cm	35～47cm	30～44cm	50～66cm	137cm	51cm	9 kg	70 kg

標準の製品構成

サイズ	折畳全長 (最小)	全幅	重量
S	140cm	41cm	16 kg
M	170cm	46cm	18 kg
L	200cm	51cm	21 kg

高さ調節式台車

サイズ	全長	全幅	全高	ベース高さ	重量
S	120cm	65cm	80cm	18～28cm	10 kg
M	130cm	70cm	80cm	18～28cm	11 kg
L	140cm	70cm	80cm	18～28cm	12 kg

取扱業者・連絡先

製造・発売元 風の郷工房有限会社

〒992-0334
山形県東置賜郡高畠町大字一本柳 2535-1
TEL 0238-52-1446

マルチプロンキーパー

R5年 9月

取扱説明書

目次

1. 製品の特徴
2. ご使用上の注意事項
3. 製品構成と各部の名称
4. 基本ユニットの調整方法
5. オプション部品の種類と調整方法
 - 頭部支え
 - 上肢支え
 - 上肢ベースクッション
 - 臀部支え
 - 下腿支え（ウレタン）
 - 下腿支え（金属フレーム）
 - キャスター仕様前脚
 - 高さ調節式台車
6. いろいろな腹臥位姿勢
7. お手入れ・メンテナンス
8. サイズ寸法表



1. 製品の特徴

- 各種部品の選択と組み合わせによって一人一人にあった多様な腹臥位姿勢をサポートします
- 排痰を促し呼吸を改善します
- 筋緊張が和らぎリラックスできます
- 気管切開や胃ろう造設の方にも対応します
- 身体の成長や変形拘縮に応じて高さや奥行、角度の調節ができて長く使えます
- 工具無しで誰でも簡単に調節できます
- 高さ調節式台車に載せれば腹臥位姿勢のまま移動や散歩ができます



2. ご使用上の注意事項

- 「マルチプロンキーパー」をご使用になるときは必ずドクターやセラピストの方のご指導のもとにご使用者に合わせて調整した上でご使用ください
- 各支持部の調整につきましては、ご使用者の身体を圧迫したり、呼吸を阻害したりすることのないように十分注意して奥行き、高さ、幅、角度の調整を行ってください
- 特にダイヤルロックによる角度の調節につきましては、ご使用者の各関節可動域に充分配慮した上で無理のかからない範囲でご使用ください
また左右のダイヤルロックが同じ角度で固定されるようご注意ください
- 気管切開をしているご使用者の場合には、気管カニューレがクッション等に干渉してカニューレが抜けたり呼吸を阻害したりしないように充分注意してクッションを調整してください
- 腹臥位姿勢では排痰を促す効果がありますので、気管切開をしているご使用者の場合にはご使用状況に応じて随時痰の吸引作業を行ってください
- 胃ろうを造設しているご使用者の場合には、カテーテルが干渉しないように該当部分のクッションをはずして調整してください
- 各支持部の調節を行う場合は、調節箇所と調節寸法をご確認の上で、必ずご使用者をいったん下した状態で行ってください
ご使用者が乗った状態で行うと思わぬ事故につながる危険性があります

⑨ 各種パッド・ベルト類

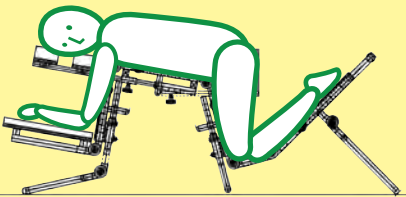
ご使用者に合わせて必要なパッド類、ベルト類を選んで下さい
すべてマジックテープでの位置調整ができます



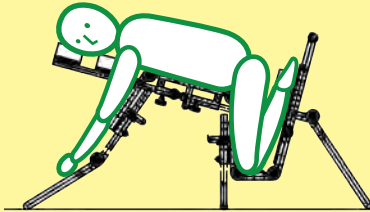
6. いろいろな腹臥位姿勢

ご使用者に応じていろいろな腹臥位姿勢をとることができますが
ご使用者の各関節可動域に充分配慮した上で無理のかからない範囲でご使用ください
また左右のダイヤルロックが同じ角度で固定されるようにご注意ください

上肢屈曲下肢屈曲



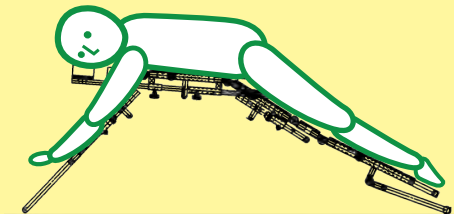
上肢伸展下肢強屈曲



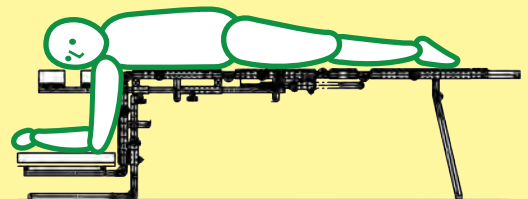
膝立ち位



上肢伸展下肢伸展

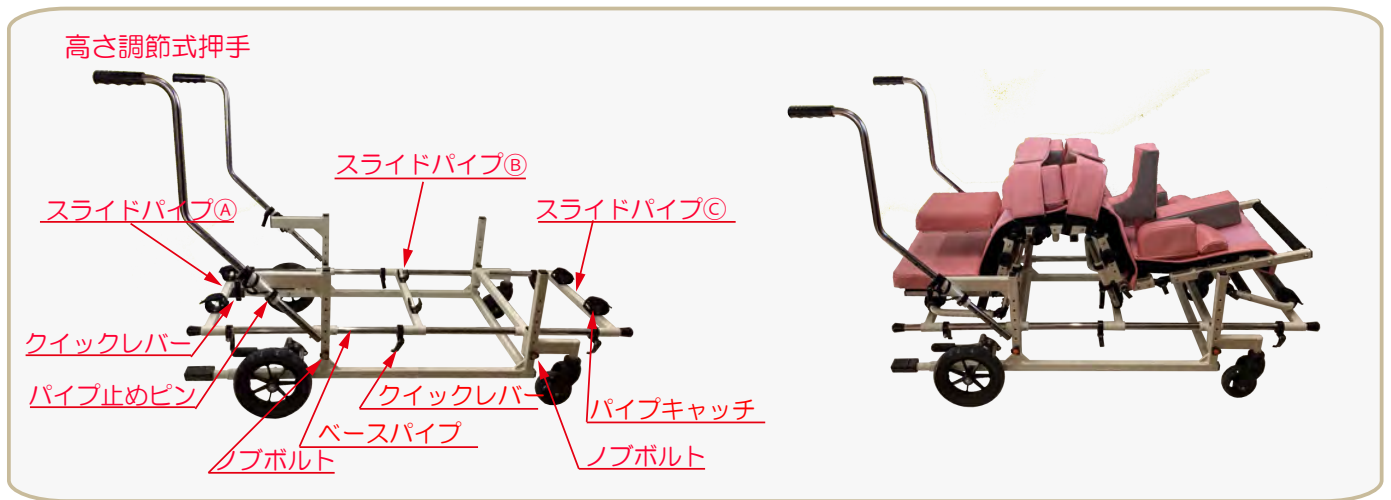


上肢屈曲下肢伸展



⑧ 高さ調節式台車

腹臥位姿勢のまま屋外での移動や散歩ができます
標準仕様の状態で載せることができます



【台車への取付方法】

- パイプキャッチ（左右2ケ）を取付けたスライドパイプ3本を使って標準仕様のマルチプロンキーパーを載せることができます
（※「キャスター仕様前脚」を取付けた状態では台車に載せることはできません）
 - 介助者をご使用者の顔色や呼吸状態などを観察しながら使用する必要性のある場合は、押手側に頭部支えが向くように載せます
 - スライドパイプ（3本）を固定しているクイックレバーを開いて自由に動かせる状態にします
 - スライドパイプ①と③をそれぞれ端に寄せておきますスライドパイプ②は中央に配置します
 - 最初に通常はスライドパイプ③に下腿支えの後脚パイプを合せてパイプキャッチ（左右）にはめクイックレバーを締めて固定します
 - 次に「後方高さ調節支柱」の位置にスライドパイプ②を、「標準仕様前脚」の位置にスライドパイプ①をスライドさせて、それぞれパイプキャッチにはめクイックレバーを締めて固定します
- 標準仕様前脚の前パイプの位置にスライドパイプ①が合わない場合は、「前脚貫き」の位置に合せてパイプキャッチにはめクイックレバーを締めて固定します
- 下肢が全伸展の姿勢の場合はスライドパイプ②は使用しません
 - 全体の位置が決まったら前後のパイプキャッチに付いている折り返しベルトで固定します

【ベースパイプの高さ調整】

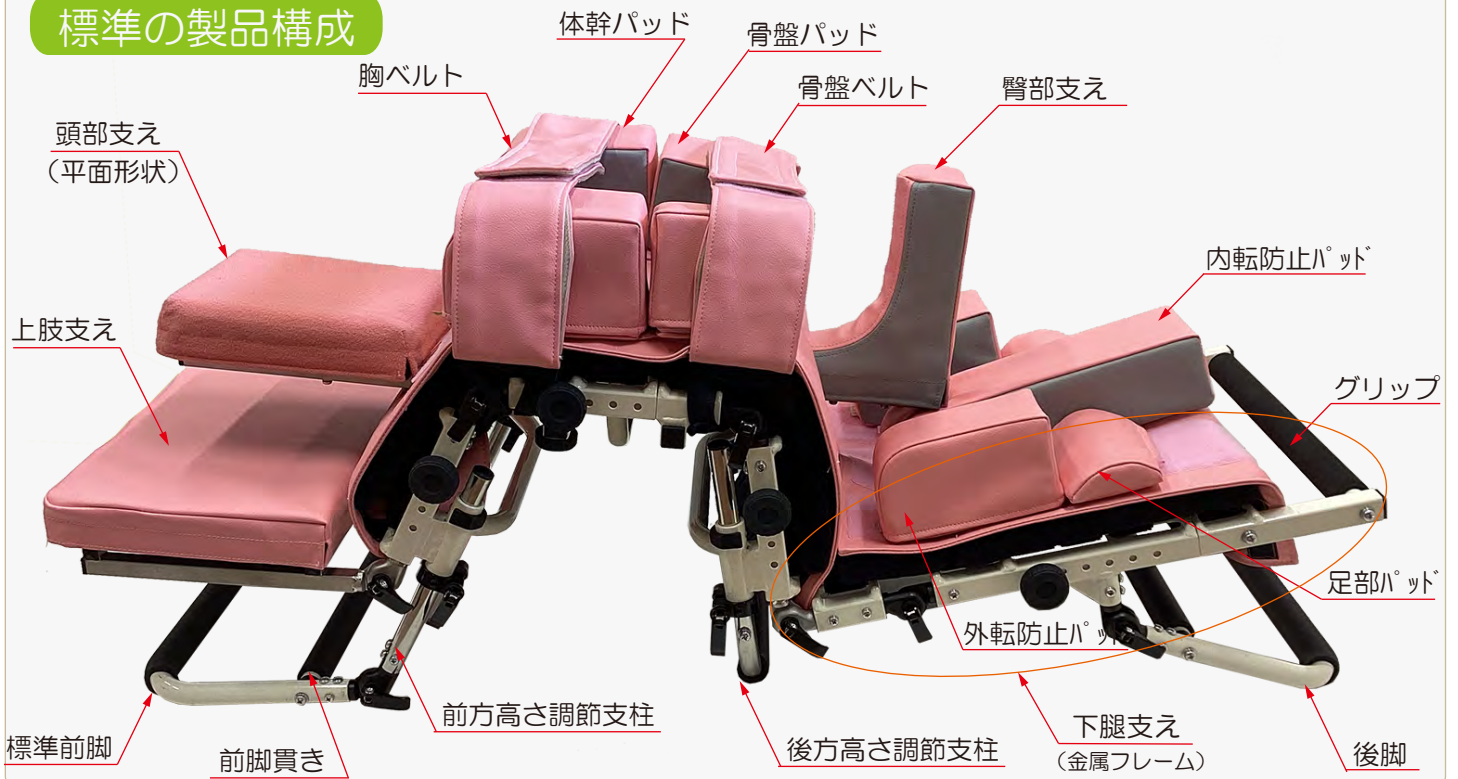
- ベースパイプの高さは介助者の身長やや移乗の際のしやすい高さに合わせて2cm単位で10cmまで上げることができます
- 左右4箇所のノブボルトをはずし、お好みの高さに合わせて締め直してください

【押手の高さ調節】

- 押手の高さは介助者に応じて5cm刻みでかえることができます
- 押手のクイックレバーを解除しパイプ止めピンをはずして好みの高さで再度差し込みます再度クイックレバーをしっかり締めてください

3. 製品構成と各部名称

標準の製品構成



オプション部品

基本ユニットを中心として
様々なオプション部品を組み合わせてご利用できます

基本ユニット



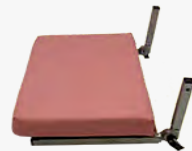
頭部支え (平面形状)



頭部支え (顔面受け)



上肢支え



上肢パッド・スクッション



体幹パッド・骨盤パッド



臀部支え



下腿支え (ウレタン)



下腿支え (金属フレーム)

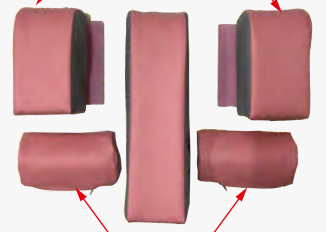


胸ベルト・骨盤ベルト



外転防止パッド

内転防止パッド



足部パッド

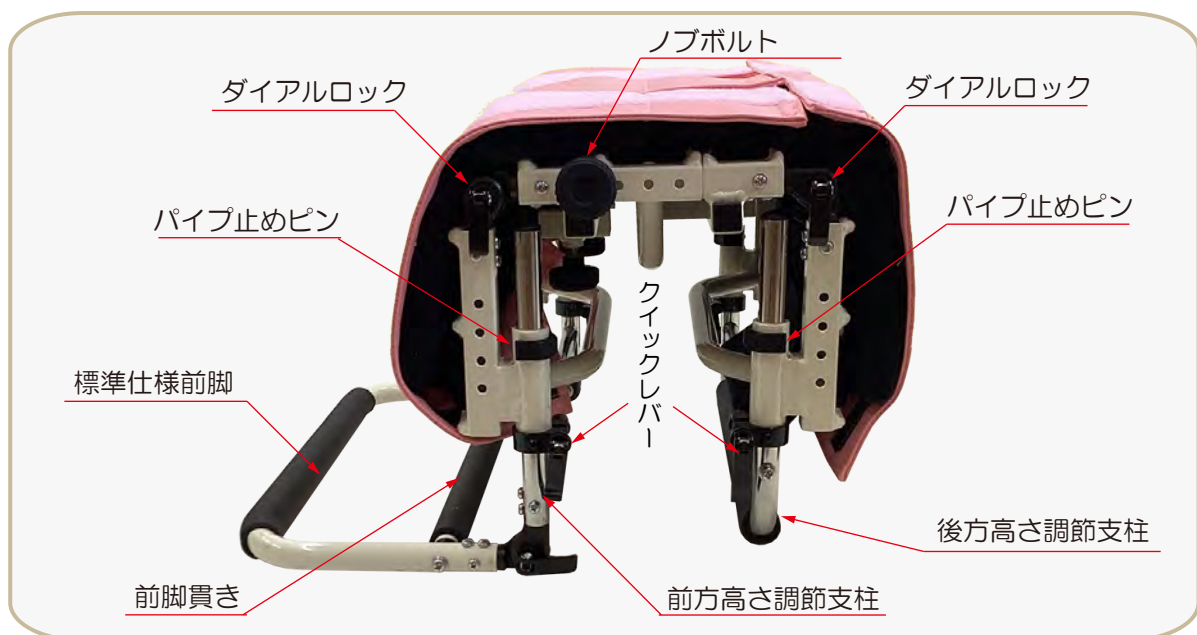
キャスター仕様前脚



高さ調節式台車



4. 基本ユニットの調整方法



① 上腕部と大腿部の高さ調節

- 上腕部の場合は、前脚（標準仕様・キャスター仕様）の前方高さ調節支柱下部のクイックレバー（左右）を開いて解除し、上部のパイプ止めピン（左右）を抜いて2cm間隔に空いている穴をずらします。穴をずらした後は再びパイプ止めピンを差してクイックレバーを締めます。
- 大腿部の場合は、後方高さ調節支柱下部のクイックレバー（左右）を開いて解除し、上部のパイプ止めピン（左右）を抜いて2cm間隔に空いている穴をずらします。穴をずらした後は再びパイプ止めピンを差してクイックレバーを締めます。

② 体幹骨盤部の奥行き調節

- あらかじめ表面のカバーとクッション、センターシートをはずしておきます。
- ノブボルト（左右）を外して内側の角パイプをずらします。2cm間隔に空いている穴をずらし、内側に溶接されているナットに再びノブボルトを差し込んで締めます。
- センターシートをセットし直し表面のクッションとカバーを戻します。（※大腿部のカバーは赤い糸のラインが股関節部の角にくるようにしてください）
- 奥行きを4cm以上上げた場合は追加のスリングベルトと延長クッションをご利用ください。



【大腿部の高さ調節と下腿部の奥行き調節】

- あらかじめ大腿部または下腿部表面のカバーと大腿クッションまたは下腿クッションおよびセンターシートをはずしておきます
- ノブボルト（左右）を外して内側の角パイプをずらします
2cm間隔に空いている穴をずらし、内側に溶接されているナットに再びノブボルトを差し込んで締めます
- センターシートをセットし直し表面のクッションとカバーを戻します
- 奥行きを4cm以上広げた場合は追加のスリングベルトと延長クッションをご利用ください



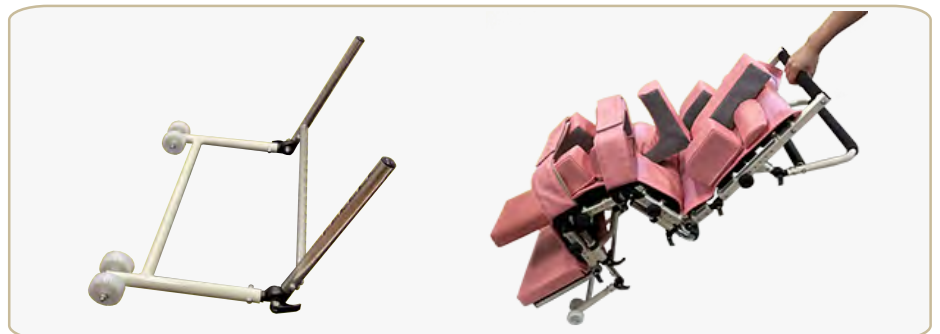
【下腿支えの角度調節】

- 下腿支え（金属フレーム）には膝関節前方、膝関節後方、下腿部下の3箇所（左右で6箇所）のダイヤルロックがあります
- 膝関節の屈曲角度が110度程度までの場合は、膝関節前方と下腿部下のダイヤルロックのクイックレバーを解除し、任意の角度で接地できる位置で再びクイックレバーを締めます
- 膝関節の屈曲角度が110度を超える場合は、膝関節前方、膝関節後方、下腿部下の3箇所（左右で6箇所）のダイヤルロックのクイックレバーを解除し、任意の角度で接地できる位置で再びクイックレバーを締めます

※ クイックレバーを締める際には、ダイヤルロックがしっかり溝にはまっているか確認し
また左右で同じ角度にそろっているか注意してください

⑦ キャスター仕様前脚

室内での移動が楽にできます
基本ユニットの標準仕様前脚と入れ替えます



- 基本ユニットの標準仕様前脚と入れ替えて下腿支え（金属フレーム）と併用で使します
- 下腿支え（金属フレーム）のグリップをつかんで持ち上げることで室内での移動が楽にできます

③ 上肢ベースクッション

- 上肢支えを使用しない場合に、上肢が前脚のパイプに当たらないように使用します
- 前脚部のパイプにマジックテープで取付けます

上肢ベースクッション

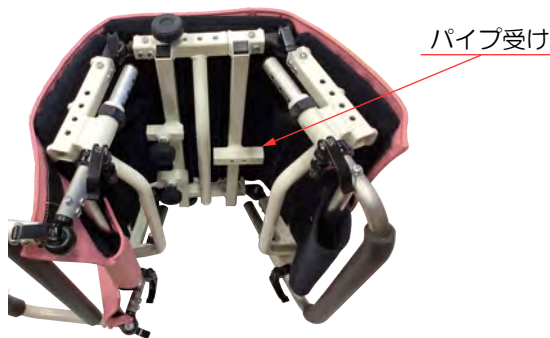


④ 臀部支え

身体のずれを防止します

基本ユニット裏側のパイプ受けに差し込んでノブボルトで固定します

- 基本ユニット裏側後方中央のパイプ受けに差し込んで使用します
(※大腿部カバー中央のスリットから差しこみます)
- ノブボルト（1ヶ）を受けパイプの穴に差し込み、臀部支えの角パイプ内側に溶接された爪付きナットに締めこんで固定します
受けパイプにノブボルトを差し込む穴位置は複数箇所ありますが、標準的には一番奥の穴位置となります
狭いと感じる場合は穴位置をずらすことで前後調節が可能です



臀部支え



⑤ 下腿支え（ウレタン）

下肢の屈曲姿勢を必要としない場合
基本ユニットにバックルで固定します

- 2cm、3cm、5cmの三層のウレタンクッションで高さ調節ができます
- クッション前方のバックルで基本ユニットの後方高さ調節支柱に固定して使用します

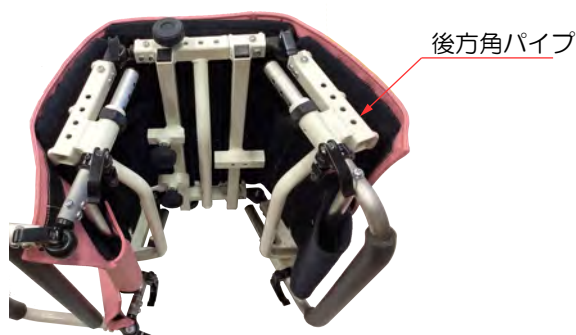
下腿支え（ウレタン）



⑥ 下腿支え（金属フレーム）

下肢の屈曲姿勢を必要とする場合

基本ユニットの後方角パイプ差し込んでノブボルト（左右）で固定します



下腿支え（金属フレーム）



③ 肩関節と股関節の角度調節

- 各関節部のダイヤルロック（左右）のクイックレバーを開いて解除し、任意の角度に調節してから再びクイックレバーを締めます
（ダイヤルロックの調節角度は7.5度刻みになっています）

※ クイックレバーを締める際には、ダイヤルロックがしっかり溝にはまっているか確認し
また左右で同じ角度にそろっているか注意してください

④ 前方が高くなるように傾斜をつけたい場合

- 前方の高さ調節支柱を後方の高さ調節支柱より長く伸ばす
- 前脚の中間部にあるダイヤルロックのクイックレバー（左右）を解除し、任意の角度に調節してから再びクイックレバーを締めます
その際、肩関節や股関節の角度も同時に調節する場合は該当部分のダイヤルロックも解除しておきます



⑤ 気管カニューレの干渉を防ぐ調整方法

- 基本ユニットのベースクッションは「平面クッション」と「気切胃ろう対応クッション」の二種類から選択していただきます
気管切開をしているご使用者の場合は「気切胃ろう対応クッション」を選択してください
- 「気切胃ろう対応クッション」の場合、基本ユニット上面のカバー（3枚に分かれている）をめくると中は細かく分割されたクッションで構成されています

平面クッション

気切胃ろう対応クッション



- 気管切開をしているご使用者の場合には、気管カニューレの干渉を防ぐために表面のセンターカバーをめくって、体幹部ベースクッションの「前中」表示のクッションをはずしてください



- 表面のセンターカバーを、はずしたクッションの凹部に沿うように貼り直して空間を確保してください
- 頭部支えを使用している場合は、必要に応じて気管カニューレに干渉しないように頭部支えの前後位置を調節してください



⑥ 胃ろうカテーテルの干渉を防ぐ調整方法

- 胃ろうを造設しているご使用者の場合にも、基本ユニットで「気切胃ろう対応クッション」を選択してください
- 胃ろうを造設しているご使用者の場合には、胃ろうカテーテルの干渉を防ぐために、表面のセンターカバーをめくって、体幹部ベースクッションの「中中」表示のクッションをはずしてください



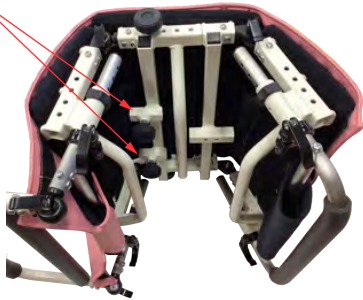
- 「中中」表示のクッション位置が胃ろう部分と合わない場合は前後の「細中」表示のクッションと前後位置を入れ替えるなどして位置の調整をしてください
- 胃ろうを逃がすクッション位置が決まりましたら、表面のセンターカバーがはずしたクッションの凹部に沿うように貼り直して空間を確保してください
- 胃ろうカテーテルの接続チューブを側方に逃がす必要がある場合は「中中」表示クッションに接続するように「細R」または「細L」表示クッションを配置し、該当部分のクッションをはずしてください
この場合表面のサイドカバーは貼り直す必要はありません



5. オプション部品の種類と調整方法

- ① 頭部支え 頭部を挙上して保持できない場合に使用します
基本ユニット裏側のパイプ受け二か所に差し込んでノブボルト（左右）で固定します

パイプ受け
ノブボルト



頭部支え（平面形状）



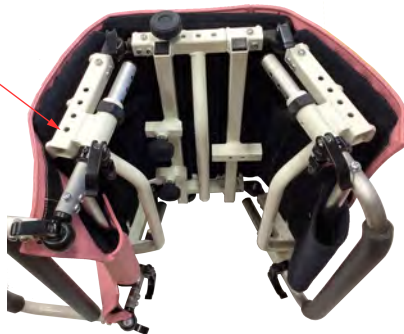
頭部支え（顔面受け）



- 頭部支えは「平面形状タイプ」と「顔面受けタイプ」があります
どちらも基本ユニット裏側前方の受けパイプに差し込んで使用します
(※上腕部カバーの二か所スリットから差しこみます)
- 左右のノブボルト2ヶで締めて固定するので前後位置の調節が可能です
- 「顔面形状タイプ」の場合、前後のクッション間隔の微調整が可能です

- ② 上肢支え 上肢を支えることで頭部の挙上がしやすくなります
基本ユニットの前方角パイプに差し込んでノブボルト（左右）で固定します

前方角パイプ



上肢支え



【高さ調節】

- あらかじめ体幹部表面のカバーと上腕クッション、センターシートをはずしておきます
- ノブボルト（左右）を外して内側の角パイプをずらします
2cm間隔に空いている穴をずらし、内側に溶接されているナットに再びノブボルトを差し込んで締めます
- センターシートをセットし直し表面のクッションとカバーを戻します
- 奥行きを4cm以上広げた場合は追加のスリングベルトとクッションをご利用ください

【角度調節】

- ダイヤルロック（左右）のクイックレバーを開いて解除し、任意の角度に調節してから再びクイックレバーを締めます

※ クイックレバーを締める際には、ダイヤルロックがしっかり溝にはまっているか確認し
また左右で同じ角度にそろっているか注意してください